

#### (4) 大気安定度分類

PasquillとMeadeの日射量に対する定性的な表現をわが国での日射量の強弱に対応させて修正したものを使用した。

表-33 Meadeの安定度分類（日本式に修正したもの）

地上風速 ( <i>m / S</i> )	日 中			本 曇 (8~10)	夜 間	
	日 射 量 ( <i>cal / cm<sup>2</sup> / hr</i> )				上 層 雲 (5~10)	雲 量 (0~4)
	強 ＞ 5 0	並 4 9 ~ 2 5	弱 ＜ 2 4	本曇の夜	中・下層 雲 量 (5~7)	
＜ 2	A	A - B	B	D	—	—
2 ~ 3	A - B	B	C	D	E	F
3 ~ 4	B	B - C	C	D	D	E
4 ~ 6	C	C - D	D	D	D	D
＞ 6	D	D	D	D	D	D

#### (5) 一酸化窒素→二酸化窒素反応モデル

一酸化窒素から二酸化窒素への反応を表現するモデルとしては、窒素酸化物と二酸化窒素の間の回帰式による統計的手法を適用した。観測局別・季節時間帯別の二酸化窒素および窒素酸化物濃度に基づき、統計解析により次の線形回帰式

$$[\text{NO}_2] = a [\text{NO}_x] + b$$

の係数a, bを局別・季節時間帯別に算定し、窒素酸化物を二酸化窒素に変換することにした。

また、局別に係数bが異なるのを避けるために $[\text{NO}_2] = a [\text{NO}_x]$ により変換する方法を適用した。

#### (6) バックグランド濃度の推定

実測値と拡散モデルによる計算値との間には、多少の数値の差が生じるが、その主な原因としてつぎの事柄が考えられる。

- 1) 対象地域における煙源から排出された汚染物質が、風向の変化により吹き戻されるこ

とにより生ずる濃度の

- 2) は握できなかった発
- 3) 汚染物質の長期間滞
- 4) 自然界に元来生存す
- 5) 測定法や測定位置等

また、バックグランド濃度の間の関係からバックグランド濃度では0.002ppmとした。

### 5. 環境基準を満足

二酸化硫黄については、昭

二酸化硫黄の日平均値の2%

二酸化窒素については、昭

二酸化窒素の日平均値の9%